

Y01a **首都圏外の大学院生による学生アウトリーチ団体の発足と、天文・宇宙物理学に関するサイエンスコミュニケーション活動の実践**

松井瀬奈, 佐藤伸成, 細木雄登 (名古屋大学), 他 名古屋大学学生アウトリーチ研究会 IGNIMUS メンバー

現代におけるサイエンスコミュニケーション (以下、SC) 活動は、SNS の活用や動画配信といったデジタルコンテンツを中心に多様化している。一方で 2023 年 5 月、新型コロナウイルス感染症の 5 類感染症移行に伴い、今後は対面での SC 活動の機会増加が期待できる。しかし SC 活動に興味を持つ大学生・大学院生は少なくないものの、実際に活動を行っている学生は少ない。2021 年度第 51 回天文・天体物理若手夏の学校・全体企画「アウトリーチ 2020 年代!」で行われたアンケートでは、SC 活動に興味が「とてもある」「ある」という回答は 83 %にも及ぶにも関わらず、実際に「活動している」「過去に活動していた」と答えた割合は 25 %に留まった。さらに経験則として、首都圏外で SC の機会を学生自身が発見し実行するまでのハードルは高いと想定される。

そこで 2023 年 4 月、我々は「名古屋大学学生アウトリーチ研究会 IGNIMUS」という団体を発足した。アウトリーチ活動に興味を持ちながら行動へのハードルが高いと感じる名古屋大学の学生に向けた SC 関連情報の提供や、活動機会の共創を目標とした団体である。学生だけでなく、学生の SC 活動に協力的なスタッフや卒業生の参加も歓迎し、2023 年 6 月 12 日現在早くも 26 名のメンバーが在籍している。

本発表では 4 月から 7 月にかけて全 4 回開催の主催イベント「月替わりサイエンス食堂」の実施結果に関して議論を行う。さらに名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部とのタイアップ企画の実践報告や、団体初となる学外イベントへの出展報告なども予定している。